



HUMAN
RIGHTS
WATCH

「出る杭は打たれる」

日本の学校におけるLGBT生徒へのいじめと排除

HUMAN
RIGHTS
WATCH

「出る杭は打たれる」

日本の学校における LGBT 生徒へのいじめと排除

Copyright © 2016 Human Rights Watch

All rights reserved.

Printed in the United States of America

ISBN: 978-1-6231-33481

Cover design by Rafael Jimenez

ヒューマン・ライツ・ウォッチは、世界中の人びとの権利と尊厳を守るために活動しています。差別を阻止し、政治的自由を保障し、戦時下での非人道的行為から人びとを守り、加害者を法の裁きにかける。そのために、人権侵害の被害者と人権活動家たちと共に歩みます。人権侵害を調査し、その事実を広く知らせ、加害者の責任を追求します。各国政府や権力者に対して、人権侵害行為をやめ、国際人権法を守るように強く求めます。また、すべての人びとの人権を守るという信念を共有するよう国際社会に働きかけています。

ヒューマン・ライツ・ウォッチは世界 40 カ国で展開している国際 NGO（非政府組織）です。アムステルダム、ベイルート、ベルリン、ブリュッセル、シカゴ、ジュネーブ、ゴマ、ヨハネスブルク、ロンドン、ロサンゼルス、モスクワ、ナイロビ、ニューヨーク、パリ、サンフランシスコ、シドニー、東京、トロント、チュニス、ワシントン DC、チューリッヒにオフィスがあります。

さらに詳しく知りたい方は、是非こちらのウェブサイトをご覧ください。

<http://www.hrw.org/ja>（日本語）

本報告書内の漫画は、ヒューマン・ライツ・ウォッチがインタビューした方々が、ご自身の経験を自らの言葉で語ってくださったお話に基づいている。いくつかのシーンでは、ストーリー展開に必要な文章が追加されている。© 2016 歌川たいじ

ゲイはどうして いないことにされるのだろう

Y.Nさん 大学生



僕は小学生の頃にいじめにあい、それから学校へは通っていませんでした。しかし、高校進学を機に再び学校に通うことにしたのです。それは僕にとって、勇気のいる決断でした。

実際に通ってみると、想像していたよりも馴染むことができ、すこしだけホッとしていたんです。

誰もが、身近にゲイがいることなど想像しません。だから、ゲイに対してみんながひどいことを言うのです。

ういっす

おはよう!

この学校にホモっているのかな

いたら接近禁止令出してもらうわ

そんな僕ですが、自分がゲイであるという自覚が生まれてから心に重くのしかかる思いがありました。

昨日、帰りのマックでノート忘れたでしょ

おわっ気づかんかった

ゲイであることは悪いことではないということは学んでいた僕なのですが…

いいヤツだ! 愛してる

やめろやガチでホモだと思われるぞ





高校生活のいたるところで同性愛者を差別する言葉が聞こえてきました。

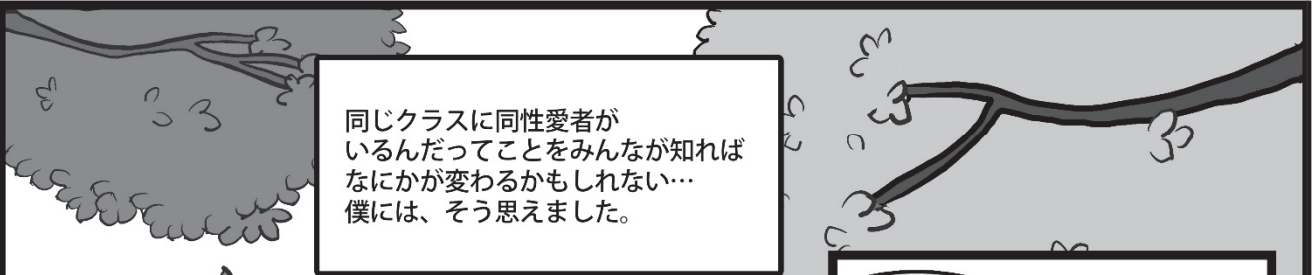
ゲイだって友達のことを思いやったり、未来に夢を描いたり、みんなと同じように生きています。

なのに、当事者が聞いたらどんなに悲しい思いをするか誰もまったく想像しないのです。



わはは差別発言じゃん

差別でもなんでもいいよマジ消えてほしいもんは消えてほしいもんな



同じクラスに同性愛者がいるんだってことをみんなが知ればなにかが変わるかもしれない…僕には、そう思えました。



母は大反対でした。

あなたがゲイだっただけでショックなのに学校でまで波風立てないで！



母さん、僕…学校でゲイだとカムアウトしたい



やっぱり知ってもらいたい。ゲイは身近にいるんだってことを。



ひどいでしょうその人、私がゲイみたいな言い方するんですよ

しかし学校では生徒だけではなく先生までも差別的な発言をしていました。それを聞く毎日は、耐えがたいものでした。

いくらなんでもゲイにされたんじゃたまらないね



そのシャツマジか!

おまえなんだよそれ!

ある日、僕はとうとうある行動に出ました。「僕はゲイ」と書かれたシャツを着て、みんなの前に立ったのです。



知ってもらいたかったんですゲイは身近にいて、みんなの言葉に傷ついているんだって!



教室で待っている

僕は学校の風紀を乱したと責められ、母が学校に呼び出されました。先生は母と別室で話し、僕の思いを聞こうとはしませんでした。



先生のこのときの言葉はいまでも忘れられません。



他人の迷惑を考えないのか
これからはおまえと話してるだけで俺までゲイじゃないかって疑われるんだぞ



それから、激しいいじめが
はじまりました。
無視や暴力は日常茶飯事で、
陰口なども頻りに言われる
ようになったのです。

ツイッターなどのSNSで、
僕の実名や画像を
晒した上で口汚く
罵られることも。

着替えも保健室で
しなければならなくなりました。



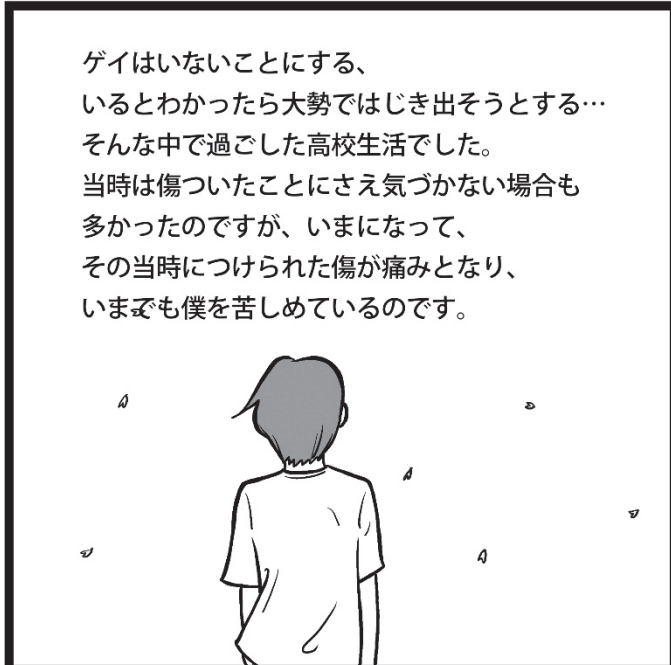
ホモはマジで
キモい、
消してほしい

怖くて授業
受けられない



女子更衣室で
着替えるよ

出て行け



ゲイはいないことにする、
いるとわかったら大勢ではじき出そうとする…
そんな中で過ごした高校生活でした。
当時は傷ついたことにさえ気づかない場合も
多かったのですが、いまになって、
その当時につけられた傷が痛みとなり、
いまも僕を苦しめているのです。

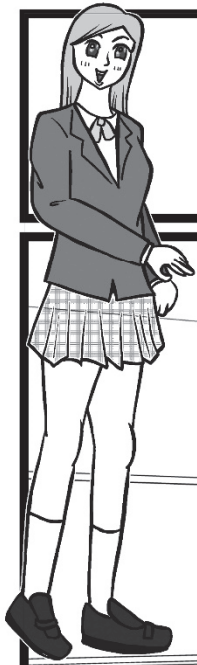


ゲイだとか
なんだとか
そんな話は知らない
いじめじゃなくて
友達同士の
じゃれあいだろう

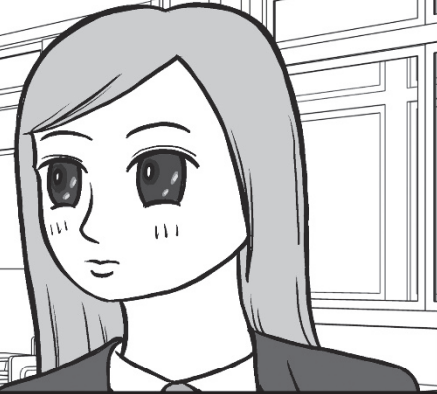
先生はほとんど
相談に乗っては
くれませんでした。

LGBTのことを なにも知らない先生たち

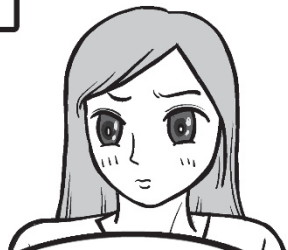
A.Kさん 高校生



私は同性が好きだという自分に
気づいていましたが、そのことを誰にも
打ち明ける気にはなれませんでした。



同性愛者で
あることは
誰にも言えないと
思いました。



ネットで同性愛や同性愛者について
調べてみると、同性愛者を
快く思わない人が大勢いることが
わかります。
中には口汚く罵るような言葉も
見受けられ…

生きてても
いいけど
近寄らないで
ほしい

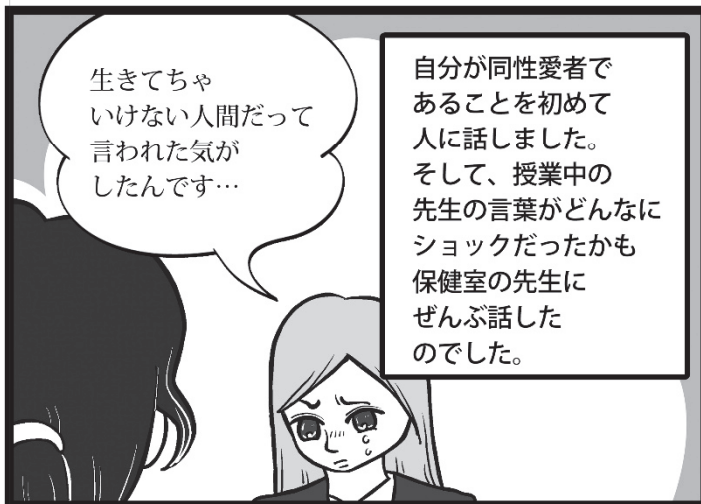
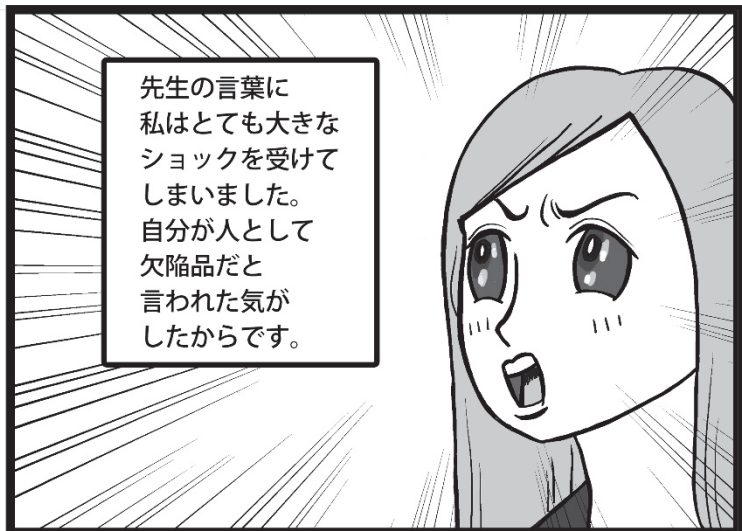
同性愛者だって
わかったら
悪いけど
友達やめるわ

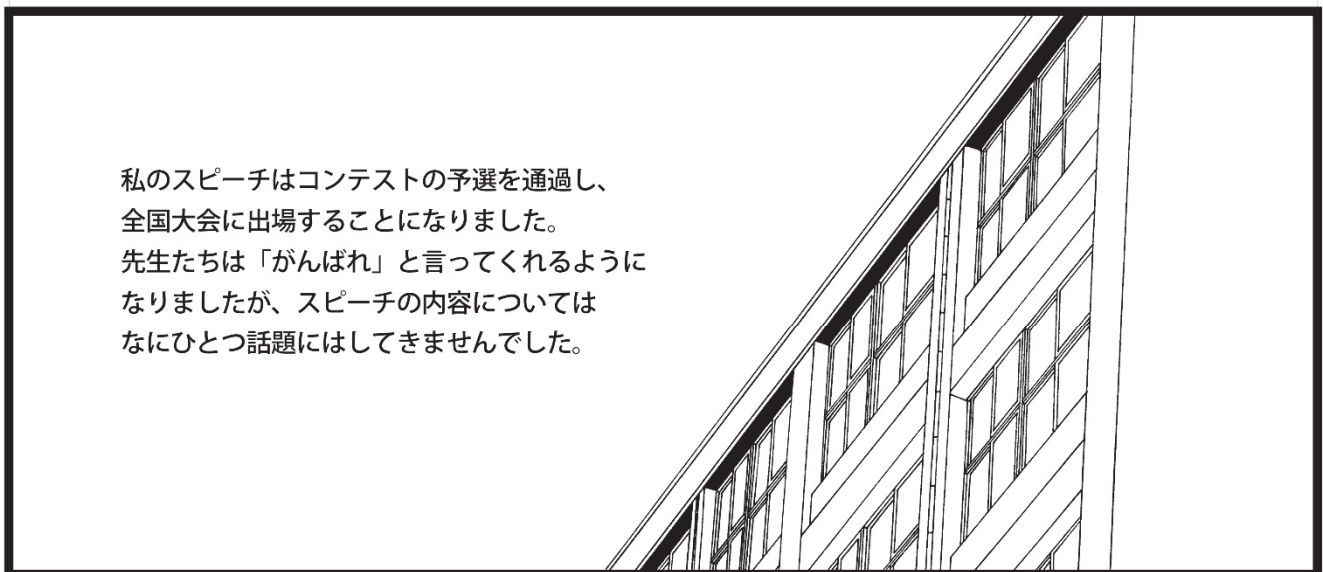
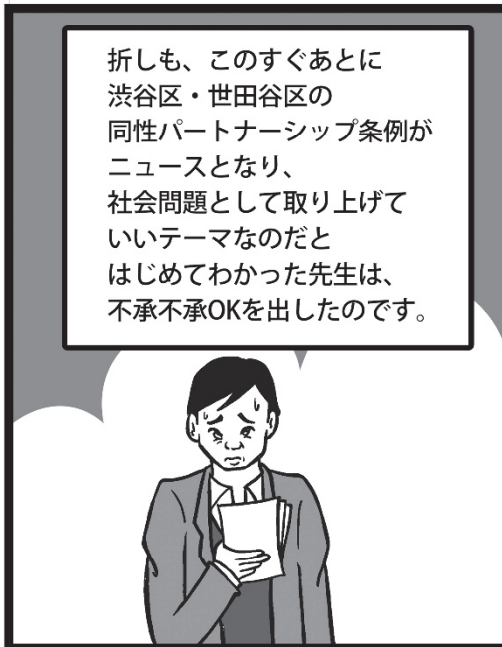
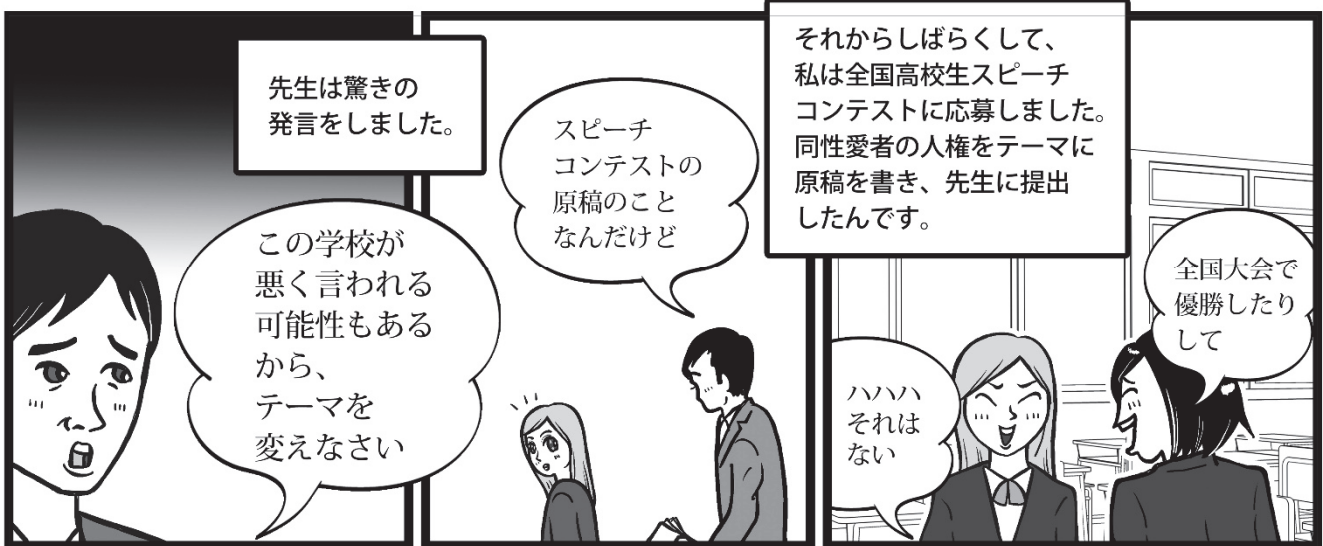
同性愛者なんて
人たちもいるが
人間としてとても
不自然な存在で、
道徳的にも喜ばしく
ない人たちです



ある日の授業で先生が、
「結婚して子どもを産むのが
女性として自然な姿なのだ」と、
言いました。









全国大会で好成績をおさめた私は、文化祭でスピーチを披露することになりました。



クラスに1人か2人は同性愛者がいるはずなのに、同性愛者について学ぼうともしていません。

よくがんばったな



でも、先生たちが同性愛や同性愛者について理解を深めたとは思えません。



性的少数者についてなにも知らない先生、そして生徒たち。そんな中で、自分を隠し、時には差別的な発言を浴びながら、同性愛者の高校生は卒業するまで過ごさなければならないのです。

少数者は多数者にあわせ
なくてはいけないの？

H.Tさん 高校生



よし、
誰も
いない

私はいつも
コソコソと隠れて
トイレに入らなければ
なりません。



キモイから
女子トイレ
使わないで
くれない？



私は自分が女性だということに
違和感があります。
だから、女性らしく振る舞うことが苦痛です。
見た目も、女性らしくできません。
中学生の頃、そのことでクラスメイトに
よく詰め寄られていました。

ひょっとして
中身は男
なんじゃない？



こんなことが続いて、
うつ状態となり
不登校になってし
まった時期が
ありました。

やがて高校に進学しましたがその学校では体操着で通学することも授業を受けることもゆるされませんでした。
男子はどんどん男らしく、女子は女らしくなっていく年頃です。
みんなの中で私は完全に孤立してしまいました。



私は意を決して、先生に性別に違和感があることを打ち明け、服装についてお願いしたのです。

それから…
できれば…
トイレは
男子トイレを
使わせてほしい
んです

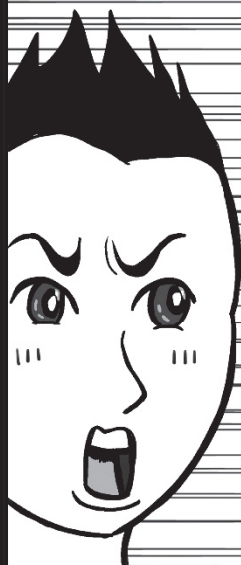


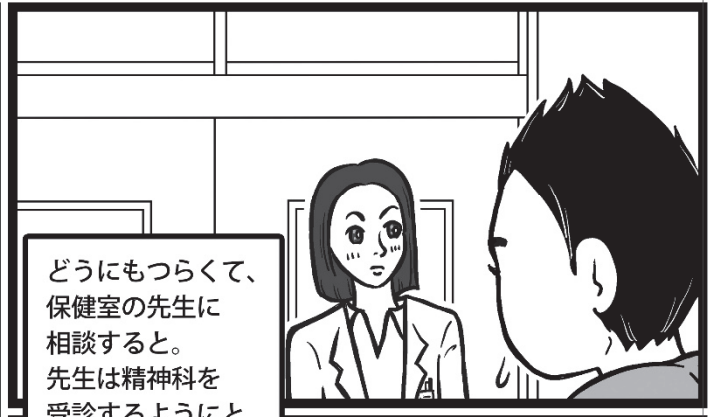
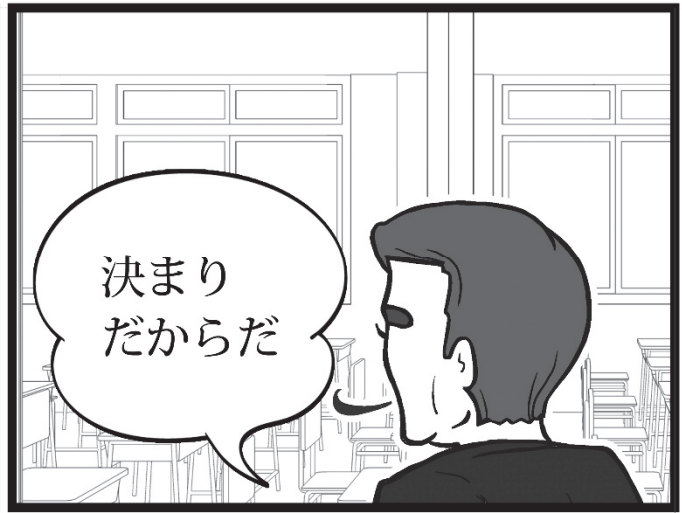
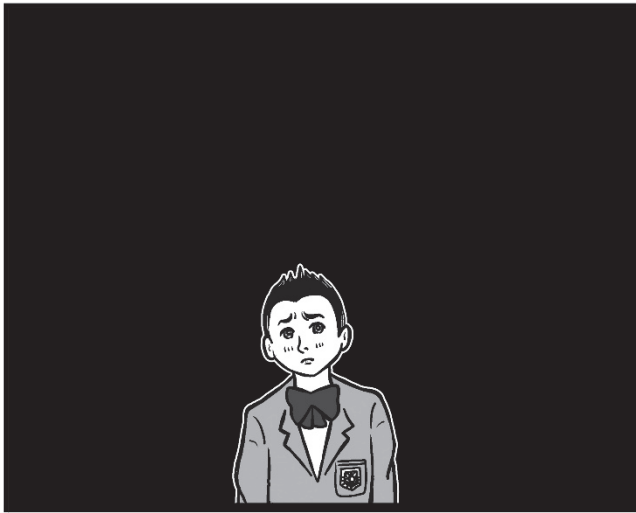
このリボン
だけでも
はずして
通学できない
でしょうか

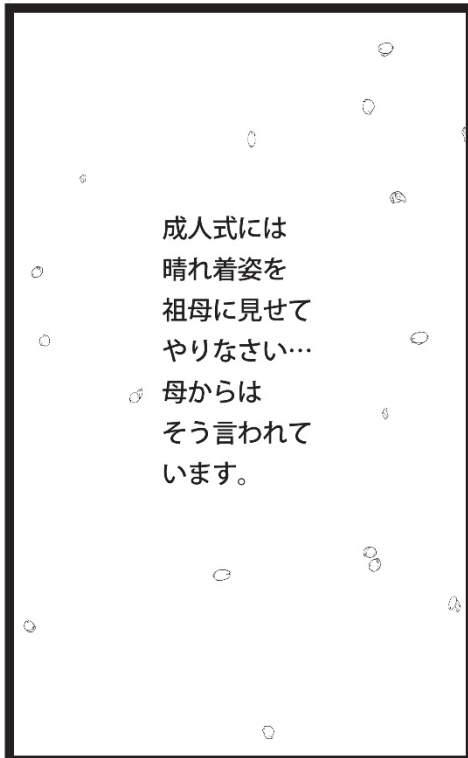


それは…
どちらも
できない

どうしてですか
このリボンに
どんな意味が
あるんですか









先生の中の同性愛者嫌悪 (ゲイフォビア)

M.Fさん 高校生

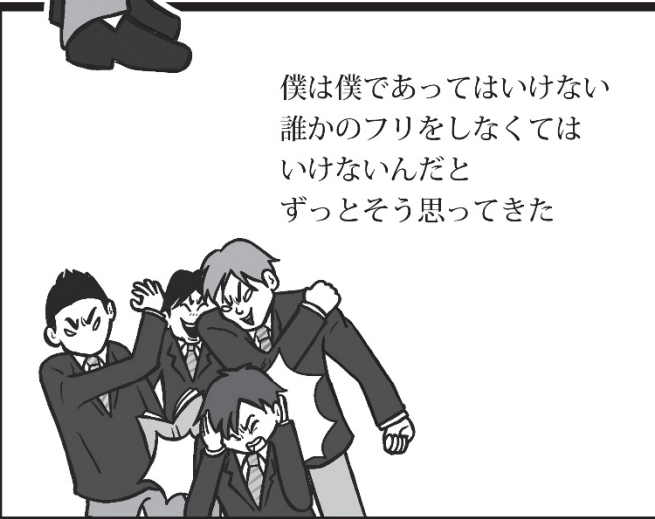


ゲイだと
カムアウトする
前からずっと
僕はいじめを
受けていたんです




僕は学校で
自分がゲイだと
いうことを公表
しています。


そんな僕に、ある日、
上級生がインタビュー
にきました。
校内新聞の記事に
するためです。



僕は僕であってはいけない
誰かのフリをしなくてはい
けないんだと
ずっとそう思ってきた




ずっと小さい頃から
僕の話し方や
身のこなしが
他の男子たちと違う
からという理由で、
ひどい暴力を
ふるわれていました



それで、
ゲイだということを
公表したんだね

はい



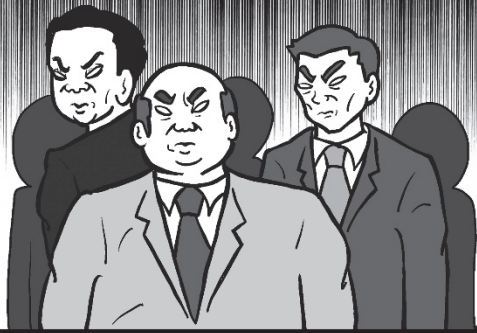
でも、
自分を否定して、
自分をねじ曲げて
生きていくのは
本当につらい
ことなんです

ノートに
マジックで落書きしたり
提出しなければならない
ものを盗んで捨てたり…
クラスの中に僕の居場所が
なくなるように
仕向けられ続けました

カムアウトしてからは
以前よりもっとひどく
攻撃されるようになりました



先生の中にも同性愛者に対して
あからさまな嫌悪感を示す先生がいるって



そして僕は、
あることに
気づいたんです



ホモ
死ねよ

うちの学校では
イジメ防止に力を入れていて
常に先生が生徒を観察しているのに
ゲイであることでいじめられている
ときは、見て見ぬふりをするんです





この学校の中で
ゲイは僕だけじゃない
と思うし、これからも
ゲイの新生が入学
すると思います
彼らもゲイだとバレたら
ひどい仕打ちを
受けるんです



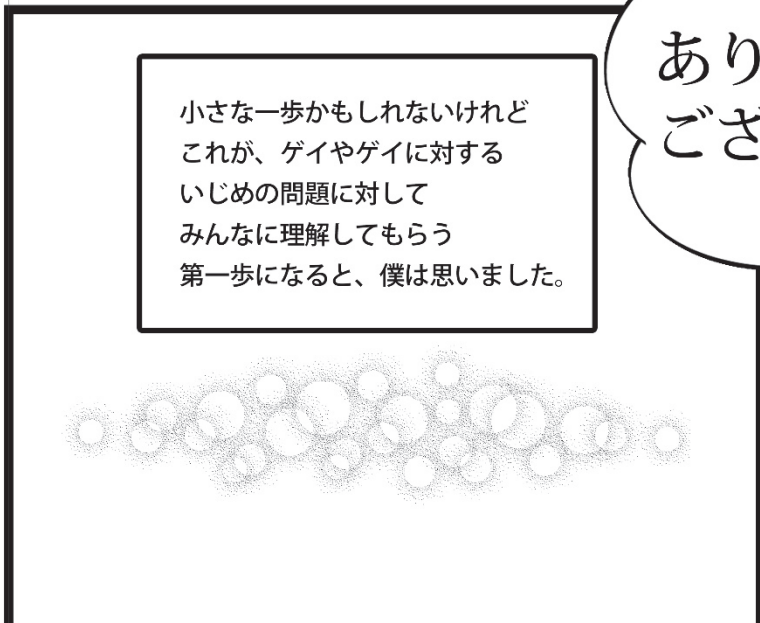
ゲイであろうと
なかろうと
いじめていい
人間なんか
いないはず
ですよ



話してくれて
ありがとう
その気持ちが
ちゃんと
伝わるように
記事を書くよ



いじめは命さえ奪う
可能性もあるのに
ゲイだからという理由で
放置されていいんでしょうか
それを訴えたくて、
このインタビューに応じる
ことにしたんです



小さな一歩かもしれないけれど
これが、ゲイやゲイに対する
いじめの問題に対して
みんなに理解してもらう
第一歩になると、僕は思いました。



ありがとう
ございます!



ない…

インタビュー記事がどこにも載ってない…

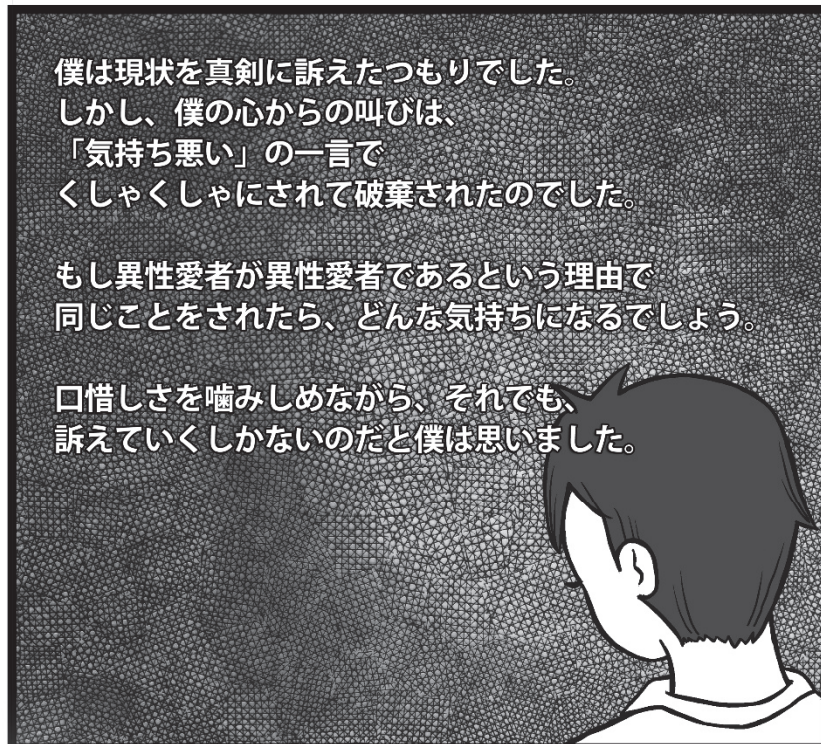
しかし…、
できあがった
校内新聞を読んで
僕はショックを
隠しきれません
でした。



気持ち悪い
記事を
載せるなッ



先生が…
直前になって
掲載を差し止めろと
指示してきたんだ



僕は現状を真剣に訴えたつもりでした。
しかし、僕の心からの叫びは、
「気持ち悪い」の一言で
くしゃくしゃにされて破棄されたのでした。

もし異性愛者が異性愛者であるという理由で
同じことをされたら、どんな気持ちになるでしょう。

口惜しさを噛みしめながら、それでも、
訴えていくしかないのだと僕は思いました。



申し訳ない…
せっかく勇気を出
してくれたのに
こんなことにな
ってしまって

「出る杭は打たれる」

日本の学校におけるLGBT生徒へのいじめと排除

日本の学校におけるいじめは深刻な問題だ。「まわりと違う」と思われた生徒が嫌がらせや脅迫、暴力の標的にされている。本人の、もしくは周囲から思われている性的指向やジェンダー・アイデンティティ（性自認）を理由としたいじめもそのひとつだ。しかし、日本の学校でのいじめが多数おきていること以上に衝撃的なのは、日本政府がこれまで、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー（LGBT）の生徒が抱える固有の脆弱性など、いじめの原因に遡って対処することを長年にわたり怠り続けていることだ。学校では風紀と和の維持が重視され、政府は「いじめはどの子供にも、どの学校でも起こりうる」ものなのだと、主張し続けている。

報告書「出る杭は打たれる」は、日本の性的マイノリティ（sexual and gender minority）の若者、そして教育の専門家を対象に行った綿密な聞き取り調査を基にしたもの。日本の政策の欠点が、LGBTの生徒をいじめにさらす原因にもなっているのみならず、知る権利や自己表現の自由へのアクセスをも危うくしている。包括的な性教育の欠如、全国的な教育カリキュラムでLGBTのテーマに触れられていないこと、性的指向とジェンダー・アイデンティティに関する教職員への必須研修がないことすべてが、LGBTの生徒を脆弱な立場に置く一因となっている。法律上（戸籍上）の性別を自認する性（ジェンダー・アイデンティティ）に変更するためには「性同一性障害」（GID）の診断を必要とする日本の制度は、厳格かつ差別的で問題が多い。この制度は、ジェンダー不一致の子どもたち（gender nonconforming children）にも悪影響を与えている。

文部科学省は近年、LGBTの生徒の認識、理解、及び対応をめぐり前向きな措置を講じてきている。今後は、いじめ問題に取り組む具体的な政策を策定して、更にもう一步前進するべきだ。同性婚や雇用における反差別政策などLGBTの権利に関する議論が活発化している現在は、日本政府がすべての子どもに対して、教育を受ける権利などの分野で自ら約束している国際人権基準に沿った政策を実現するよい機会であると言える。



© 2016 歌川たいじ